看護師の職場ストレスがワークエンゲイジメントおよび精神健康に及ぼす影響

○佐山真之¹・笹川智子²

(1)獨協医科大学越谷病院・2)目白大学人間学部)

キーワード：ワークエンゲイジメント、看護師、セルフコントロール

Effects of work engagement and mental health on nurse job stressors

Masayuki SAYAMA¹ and Satoko SASAGAWA²

(1)Dokkyo Medical University Koshigaya Hospital, 2)Faculty of Human Sciences, Mejiro University)

Key Words: Work engagement, Nurse, Self-control

目 的

近年、看護職従事者のメンタルヘルス不調の増加にともない、ストレス対策の実施が重要な課題となっている。ストレス研究の領域では、ワークエンゲイジメント (Work Engagement: WE) という概念が注目されている。WE は、「1) 仕事にやりがいを感じている (熱意)、2) 仕事に熱心に取り組んでいる (没頭)、3) 仕事から活力を得ていきいきとしている (活力)」の3つがそろった状態で、仕事に関連するポジティブで充実した心理状態」と定義され (Schaufeli et al., 2002)、バーンアウトの対概念であると考えられている。WE の高い者は、メンタルヘルス不調に陥りづらく、仕事自体をポジティブに捉えることが示されていることから、今後職場におけるメンタルヘルス対策を行う上で、重要な概念であると考えられる。しかし、これまでの研究では、研究者によって WE の概念の定義が曖昧であり、そのため尺度の整備も十分に行われてこなかった。このような問題点を踏まえ、本研究では WE を、1) 仕事における熱意・没頭・活力だけではなく、直面した事態において自己成長を期待する挑戦といったポジティブな情動を伴う評価を行っており、2) 逆境に直面した時に自分を統制できるような自己コントロールが備わっている状態、と定義した上で、WE 尺度を作成することを目的とした。そして、作成された尺度をもとに、看護師のストレスが WE および精神的健康に及ぼす影響について検証するため、モデルの検討を行った。

方 法

対象者：予備調査では看護師 32 名 (男性 1 名、女性 31 名；平均年齢 32.29 歳、 $SD=5.50$) を対象に、項目の内容的妥当性の検討を行った。本調査では看護師 306 名 (男性 14 名、女性 289 名、不明 3 名、平均年齢 30.90 歳、 $SD=7.93$) を対象に、尺度の信頼性と妥当性を再度確認するとともに、因果モデルの検証を行った。

質問紙：1) フェイス項目、2) WE 尺度 (予備調査にて作成)、3) 臨床看護職者仕事ストレス測定尺度 (NJSS; 東口他, 1998)、4) 看護婦の職務満足度尺度 (尾崎・忠政, 1988)、5) 精神健康度調査票 (日本語版 GHQ-12; 中川・大坊, 1985) を使用した。

結 果

WE 尺度を検討するために、因子分析 (最尤法, Promax 回転) を行った。第 1 因子は「仕事に対するポジティブさ」、第 2 因子は「自己コントロール」と命名された。Cronbach の α 係数は両因子とも .97 であり、2 か月の期間を置いた再検査信頼性は $r=.75$ ($p<.01$) であった。併存的妥当性を検証するため GHQ-12 との相関を確認したところ、有意な負の相

関が示された ($r=-.46$, $p<.01$)。さらに、パス解析によるモデルの検討を行った。得られた結果を、Fig. に示した。適合度は $GFI=1.00$, $AGFI=.97$, $RMSEA=.04$ であった。本モデルから、WE は職務満足度のようにストレスの影響を強く受けるものではなく、状況の困難さとは別次元の変数であることが示された。

さらに、WE とストレスとの交互作用について検討を行うため、WE 得点と NJSS 得点を独立変数、GHQ-12 を従属変数とした 2 要因分散分析を行った。その結果、WE と NJSS の交互作用が有意であった ($F(1, 255)=4.95$, $p<.05$)。Bonferroni 法による単純主効果の検定を行った結果、WE が低く、ストレスの多い群は、他のどの群よりも精神的健康が悪い ($F(1, 255)=10.15$, $p<.01$)、WE が高い場合には、ストレスの高低によって精神的健康に差が見られなかった。

Fig. 因果モデル

* $p<.05$, *** $p<.001$

考 察

本研究で作成された WE 尺度は信頼性・妥当性を有することが示された。先行研究では WE が 3 つの下位概念から構成されることが示唆されているが (Schaufeli et al., 2002)、本尺度は次元性が高く、日本においては下位概念の区別が困難であることが示唆された。また、WE を高めることは、ストレス耐性や精神的健康を維持するために有効であることが示された。

引用文献

Schaufeli, W. B., Salanova, M., Gonzalez-Roma, V., & Bakker, A. B. (2002). The measurement of engagement and burnout: A two sample confirmatory factor analytic approach. *Journal of Happiness Studies*, 3, 71-92.